

## 計画推進部会(R7.8.25開催)

No.3

- ・相談支援専門員は大変な仕事であることだけが強調され、5年の現場経験をせずに退職してしまう現状がある。
- ・補助制度の創設はありがたい。協働相談支援体制も行政が間に入るなどして円滑に進められれば良い。
- ・協働相談支援体制を進めていくと負担感が減るのか疑問
- ・補助金制度と協働相談支援体制のどちらかではなく両方推進していくことが必要
- ・協働相談支援体制はスキルの底上げに繋がるため、積極的に進めて良いのではないか。

No.8

- ・施設の職員が強度行動障がいの研修を受けただけではなく、利用者の保護者にもフィードバックが必要ではないか。
- ・保護者は孤独だと思う。ペアレントメンターなど共感しながら親をサポートする仕組みを活用しながら、そのような保護者に積極的に関わっていけるとよい。

No.9

- ・重度・医ケアの選択肢が少ない。施設が足りないのは、介護・医療に従事する職員が不足しているからと思うが、要望は継続していただきたい。

## 権利擁護部会(R7.8.25開催)

No.5

- ・公共交通機関などは要望できるタイミングがある、とあるが、他の分野も可能な限り急いで要望してほしい。
- ・要望した結果はどうだったのか。要望後の進捗管理はどうしていくのか。その過程で話し合いはできないのか。
- ・直接当事者の声を聞いて苦労はよく分かった。市民にその苦労を共有し、分かってもらうことが大事ではないか。
- ・医療機関への具体的な提案をしてほしい。来年度の取組について、取組とスケジュール感が分からぬ。
- ・何度も意見を聞く場を設ければいいと思う。
- ・職場での合理的配慮について、「同僚に理解して欲しい」とあるが、どんなことを理解して欲しいと思っているのかが明確になると検討しやすい。
- ・答えを引き出すように要望した方がいい。予算が伴う要望はすぐには難しいはず。
- ・ワーキングには地域に根ざした活動をしている民生委員からも参加してもらえるといいのでは。

### ツナガルフォーラムについて

- ・マルチホールでの音楽イベントについて、当事者のメッセージを入れるなど新たな取組を考えてはどうか。
- ・イベントに参加できていない障がい者もたくさんいるので、施設に通所していない障がい者も参加できるようなイベント内容を考えて欲しい。

## 就労支援部会(R7.8.29開催)

No.17

- ・作業工賃の算出方法の変更に伴い、作業工賃平均月額の目標数値も変更すべきではないか。

No.21、22

- ・就労選択支援サービス実施に向けた地域の情報共有の場が必要

No.23

- ・コロナ渦で業績が落ち込んでいる中小企業は、業績を立て直すことで精一杯であり、福祉分野にまで理解が到達する企業は少ないのが現状
- ・中小企業は、人材活用という視点でしか障がい分野を活用できておらず、施設外就労の開拓先となるのは難しい。